

市民公開講座「八代海・有明海を科学する」開催中

熊本大学は、熊本県と共に地域貢献特別支援事業「環・阿蘇/有明・八代海的环境保全・修復とブルーグリーンツーリズム活性化のための知的・人的ネットワーク構築」を実施しています。内容は、「沿岸域の環境調査・分析」、「ブルーグリーンツーリズムの活性化」および「環境教育」です。

沿岸域環境科学教育研究センターおよび熊本県水産研究センター教職員は、「環境教育」の一環として、市民公開講座をしています。講義では、沿岸域の生物・環境に関する最新の研究成果をわかりやすく解説し、干潟沿岸域の環境の保全創造について受講者と共に考えています。3月には、有明海の見学・実習ツアーも、実施されます。

— 講演題目 —

- 2月6日 山口隆男（沿岸域センター）有明海・八代海の興味ある動物 ハクセンシオマネキとオヨギピンノ
- 2月13日 秋元和實（同センター）小さな化石からみ

た有明海の変遷

- 20日 滝川 清（同センター）有明海の環境異変と改善への処方箋
- 27日 逸見泰久（同センター）八代海・有明海の生物と漁業
- 3月6日 瀧尾 進（同センター）ノリの色落ちのしくみを探る遺伝子研究
- 13日 平山 泉・木村武志（熊本県水産研究センター）再生に向けての取り組み
— 実習ツアー —
- 3月15日 バスと実習船による県水産研究センター見学と調査実習



参加者からの熱心な質問に答える講師

好評だった「砂をみんなで見てみよう」

2002年12月14日、熊本大学黒髪南地区において、夢科学2003が開催されました。理学部地球科学科の長谷義隆教官、松田博貴教官と大学院学生7名、沿岸域環境科学教育

研究センターの秋元は、世界の砂や様々な微化石を顕微鏡で見てもらおう企画で初めて参加しました。来場した300名以上の子どもたちに、砂の種類や分布している地域を当てるクイズや、顕微鏡下で砂から化石を拾い出してもらいました。



来場者を200以下と想定していたため、300個用意した星砂や植物化石のお土産者は、終了1時間前にはすべて無くなってしまいました。

小さな化石はどれ？熱心に砂から微化石を拾う小学生